

(仮称) 米原リゾートホテル開発計画に係る

環 境 調 査

報 告 書

平成 17 年 7 月

事業者：大和ハウス工業株式会社
株式会社興ハウジング

(仮称) 米原リゾートホテル開発計画に係る

環 境 調 査

報 告 書

平成 17 年 7 月

事業者：大和ハウス工業株式会社
株式会社興ハウジング

調 査：株式会社南西環境研究所

2.3 自然環境

2.3.1 海生生物（サンゴ礁）

2003年における石垣島周辺のサンゴ礁分布図を図2.3.1.1に示す。サンゴ類被度が高い地域は、御神崎と川平から吉原、米原に至る北西海域、及び平久保周辺である。米原のサンゴ類被度は10～30%であり、多種混成型となっている。

1989～1992年における事業計画地周辺のサンゴ礁分布図を図2.3.1.2に示す。サンゴ群集の被度に関しては、米原キャンプ場周辺の礁池が5%未満であり、米原の海岸一帯の礁縁が5～50%である。

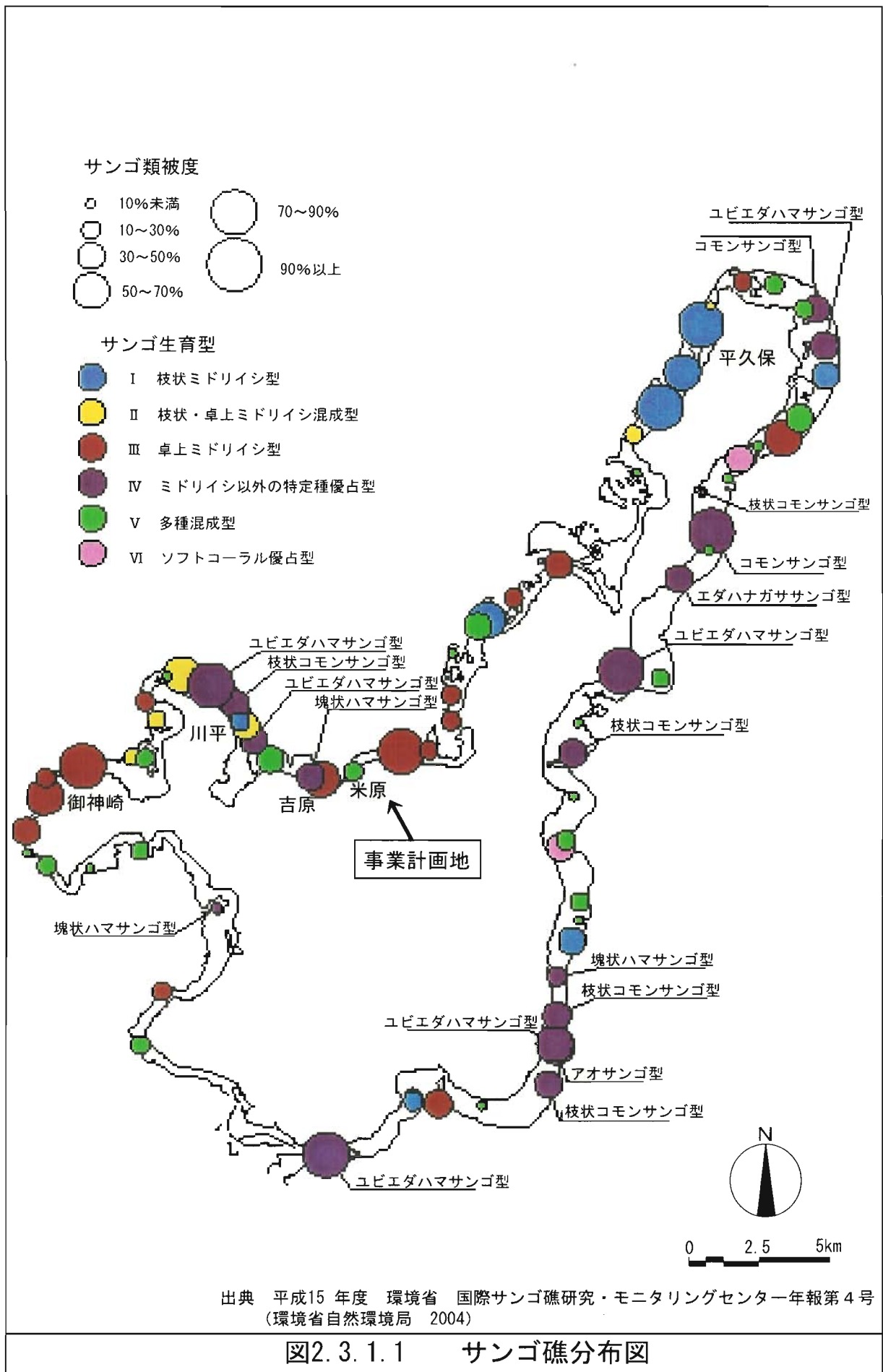
1985年と2002年におこなわれた石垣島全域でのサンゴ礁調査の報告書を基に、米原地区のサンゴ礁についてとりまとめ、表2.3.1に示した。

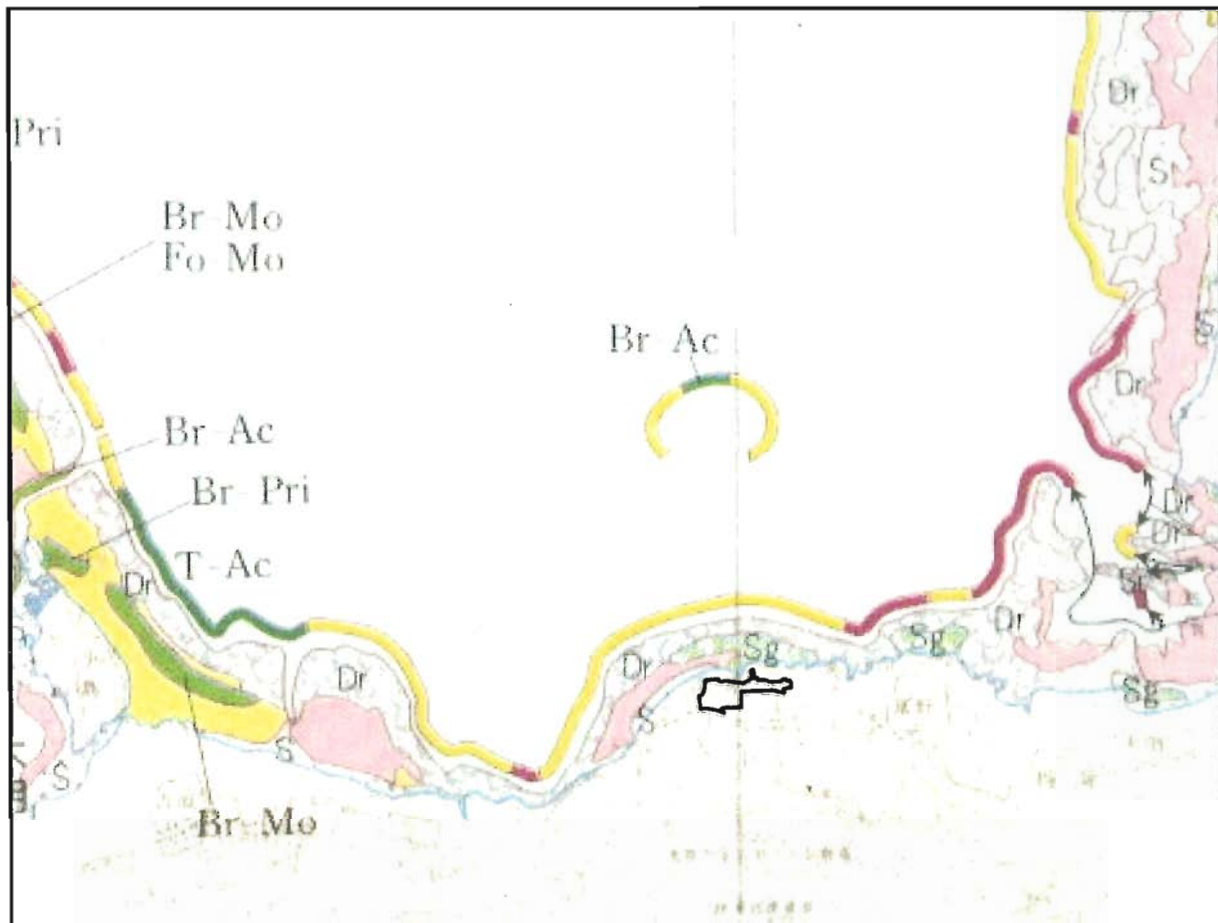
表 2.3.1 米原のサンゴ礁についての文献調査結果

文献*	調査年	調査位置	調査結果
①	1985	米原ビーチ	礁縁部の造礁サンゴの被度は50%、生存度は20%であった。以前はキクメイシ類の間に盤状ミドリイシ類が密に生育し、典型的な外洋性礁原の生態系を構成していたが、1980年と1982年にサンゴ礁の死滅減少が起こり、群体の一部が死滅したキクメイシ科のサンゴだけが残存している。すでに数年を経過し、現在は回復期にある。礁縁部から礁斜面にかけて多くのサンゴが生息する。サンゴ以外の海生生物においても、多様性が高く、特に貝類、ナマコやヒトデ・ウニ等の棘皮類が多く見られる。
②	2002	米原キャンプ場	サンゴ類被度は20%であり、多種が混成している。塊状ハマサンゴ類とシコロサンゴ類を主体とした多種混成。ミドリイシ類は直径10～20cm程度の群体が多少見られる。サンゴ類被度に関しては、2001年度までは回復傾向を示していたが、2002年の台風により大型のサンゴ群体が転倒するなどの攪乱が起き、僅かに低下している。


※①太平洋資源開発研究科，1985：石垣島周辺海域サンゴ礁学術調査報告書。沖縄県石垣市

②財団法人 自然環境研究センター，2002：石垣島周辺海域におけるサンゴ礁モニタリング調査。
環境省自然環境局

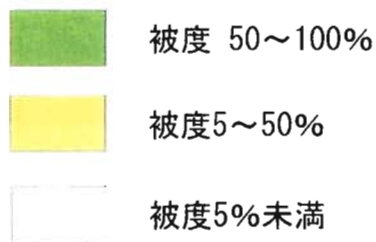




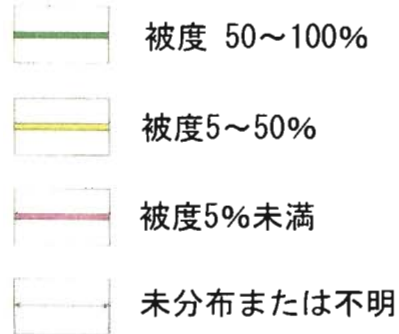
出典 自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査 サンゴ礁分布図 (環境庁 1996)

 事業計画地

礁池
造礁サンゴ群集



礁縁 (マンタ法による)
造礁サンゴ群集



底質等

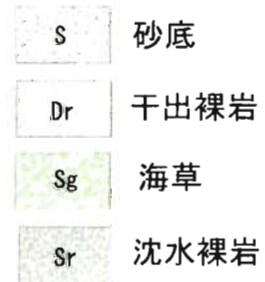


図2.3.1.2 サンゴ礁分布図